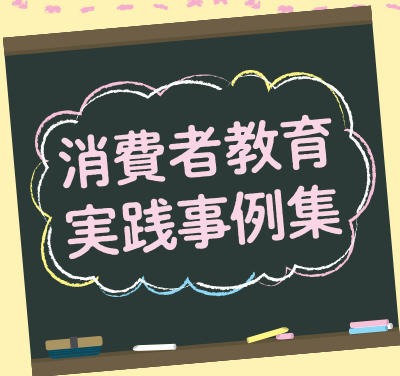


買い物やお金の知識を すごろくで楽しく学ぶ

—幼児と保護者を対象とした消費者教育—

金谷 理利果 Kanaya Ririka 後藤 彩香 Goto Ayaka 丸山 明日香 Maruyama Asuka
平川 愛理 Hirakawa Airi 佐藤 志歩 Sato Shiho

弘前大学教育学部 加賀恵子研究室 学生プロジェクト Kirschbaum メンバー
地域と結んだ消費者教育やライフキャリア教育のあり方について、実践的に考え学んでいる



こんにちは！キルシュバウム

私たちは弘前大学教育学部の大学院生1人、4年生2人、3年生2人の学生グループです。Kirschbaumとはドイツ語で桜のことです。青森県弘前市を中心に、大学生による地域の人々への消費者教育を目的に発足し活動しています。

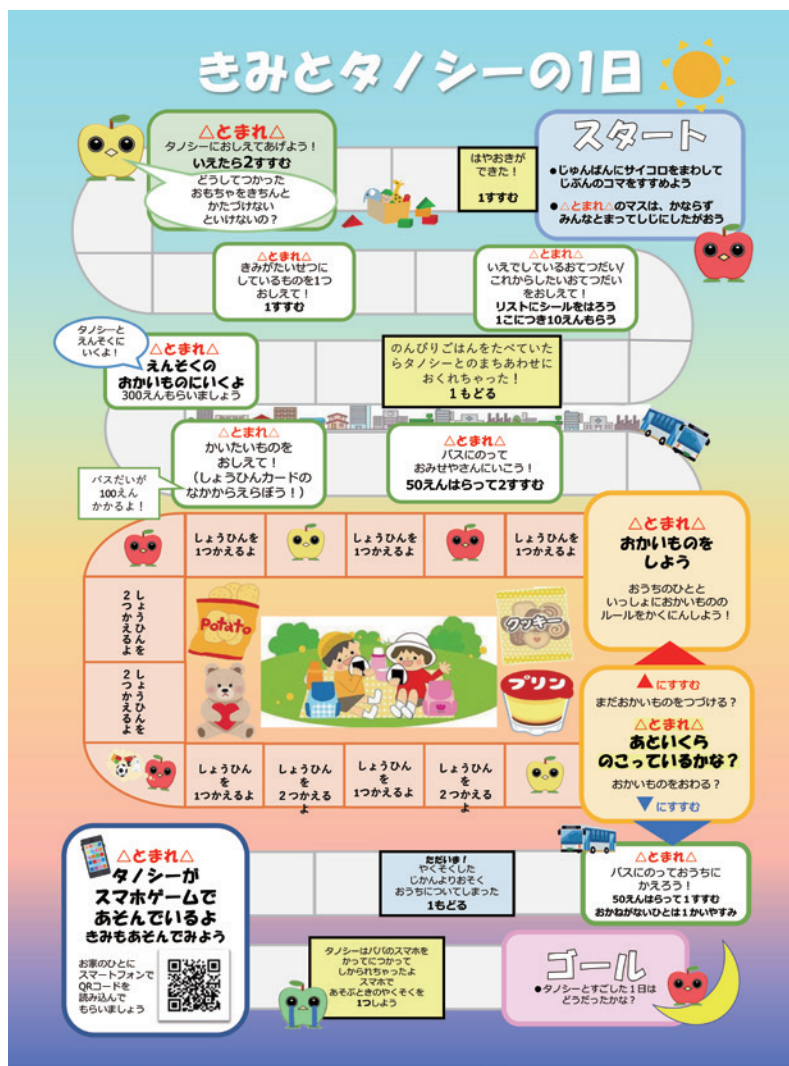
現代ではインターネットが広く普及し、幼い子どものインターネット利用や課金トラブルも増加しています。しかし、幼児向けの消費者教育教材は少なく、お金のことやインターネットの使い方について学ぶ機会もほとんどないのが現状です。そこで、親子で買い物やお金のことを楽しく、遊びながら理解することができるように「きみとタノシーの1日すごろく」(以下、すごろく)(☒)を開発し、幼児と保護者を対象とした消費者教育講座(以下、講座)を実施しました。今回はその取り組みについて紹介します。

すごろくを用いた講座の実践

講座は2022年9月に、弘前駅近くにある商業施設「ヒロロ」内の多世代交流室で行いました。午前と午後90分ずつ行い、幼児とその保護者計8組に参加してもらいました。

講座では、最初に、幼児に向けてお金の種類と

☒ きみとタノシーの1日すごろく



数え方に関して、おもちゃのお金(紙幣、硬貨)を使って分かりやすく説明するほか、保護者に対して幼児の消費者トラブルに関するミニ講座を行いました。その後、すごろくを通してお金やインターネットの利用について学ぶ、という流れで進めました。

すごろくには、家で行っているお手伝いの数

に応じてお小遣いがもらえるマス(写真1)や、遠足に持っていくおやつを買うことができるマス、スマートフォンのゲームで遊ぶマス(写真2)などがあり、りんごのキャラクターの「タノシー」と1日を過ごすなかで、お金の使い方やインターネットの課金を疑似体験することができます。すぐろくでは、幼児と保護者1組にKirschbaumのメンバーが1人ずつ付き、「遠足に行くためのおやつ、何買う?」「帰りのバスのお金残っているかな?」など、対話を交えながら楽しく活動することができました。参加した幼児のなかには、スマートフォンでのゲームに何度も挑戦し、知らない間にたくさん課金してしまった子もいました。

講座実践直後に保護者に行ったアンケートでは、「子どもがお金や買い物に興味を持つことができると思う」「親子で家庭内の決まりやルールを話すきっかけになると思う」「親子で、スマートフォンやインターネットの使い方を話すきっかけになると思う」という回答が得られました。また、「すぐろくでのお買い物とスマホゲームではお金の使い方が違って面白かった。キャッシュレス決済が主流になってきているなかで、親子で会話しながらお金の使い方を身に付けてほしいと思った」という意見があり、親子で学ぶ消費者教育の必要性を改めて確認することができました。

大学生から発信する消費者教育

私たちは講座を行うだけでなく、今回の実践内容や実践するなかで私たちが学んだこと・感じたことを、地域住民や教育関係者、中学生・高校生・大学生など、さまざまな人々に伝えるために「学生による消費生活フェスタ」(2022年11月)や「消費者フォーラム in HIROSAKI」(2023年1月)で発表しました(写真3)。

発表後、参加者からは「持続可能な社会をつくる担い手として、担い手を育てるために、積極的に行動に移していきたいと感じた」(教育学部生)、「子どもたちがインターネットを介した

写真1 家で行っているお手伝いのリストにシールを貼る幼児



写真2 スマートフォンのゲームで遊ぶ幼児



サービスを安全に活用するために消費者教育が重要であるという視点を持つことができた」(地域住民)など、消費生活について考えるきっかけになったという感想が寄せられました。

写真3 「学生による消費生活フェスタ」での発表のようす



今後の展望

私たちはこれらの活動を通して、小さいけれど確かな手応えと、消費者教育の必要性をよりいっそう感じることができました。

2023年も10月上旬に幼児と保護者を対象とした講座を開催する予定です。すぐろくや講座の内容をブラッシュアップして臨めるように、張り切って準備を進めています。Kirschbaum一同、頑張りますのでご期待ください。